

【みやき町教育委員会】

校務DX計画

【みやき町の現状】

令和5年度に実施された「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果（確定値）が令和6年3月29日に出された。それによると、みやき町では、「職員間の情報共有や連絡にクラウドサービスを取り入れているか」について、86%の学校が「取り入れている」とし、「学級・学校経営に有効な教育データ等が必要な職位に応じてアクセス権限が設定されているとともに、活用しやすいように整理され閲覧できるか」という問いに86%が「できる」と回答している。

一方で、「FAXでのやり取りを原則廃止としているか」については71%、「押印を原則廃止しているか」については86%の学校が「できていない」と回答している。

【課題】

現在、校務支援システムの導入やデジタル採点の仕組みの導入、保護者との連絡を行うクラウドシステムの運用など、大幅なシステムの導入・更新が進行している。これらの新しいシステムを最大限に活用するためには、教職員のICTリテラシーの一層の向上が求められる。現状では、教職員一人ひとりのICTリテラシーがまだまだ伸びしろを持っていると考えられ、その向上によりシステムの利活用を促進し、また、運用がよりスムーズになると期待される。

押印・FAXの原則廃止については、長年の慣習から徹底できない部分も大きい、また規則により押印を求めているものもあり、見直しが必要である。

【今後の取組方針】

以上の現状と課題から、下記の取組方針を掲げる。

- 新しいシステムの活用：校務支援システムの導入により名簿情報等の不必要な手入力作業の見直し、保護者との連絡等についてはクラウドシステムの活用など、校務DX環境を推進していく。
- 教職員のICTリテラシー向上：新たに導入する校務支援システムやデジタル採点の仕組み、既存のクラウドシステムの運用について、教職員が理解しやすい形での研修を計画・実施します。また、自己学習支援の仕組みも整備し、教職員自身が自主的にICTスキルを向上させる環境を提供する。
- FAXの原則利用禁止と押印廃止：校務のデジタル化を推進するため、将来的にFAXの利用と押印を禁止とする。これにより、教職員のデジタルツールへの依存度を高め、ICTリテラシーの向上を促すとともに、紙の消費を減らし、環境負荷の軽減にも寄与する。
- 生成AIの有効活用：最新のICT技術である生成AIの活用可能性を探るため、その有効活用に関する研究を行う。具体的な活用方法や導入のメリット・デメリット、必要な研修内容などを調査・検討し、教育現場での活用を目指す。